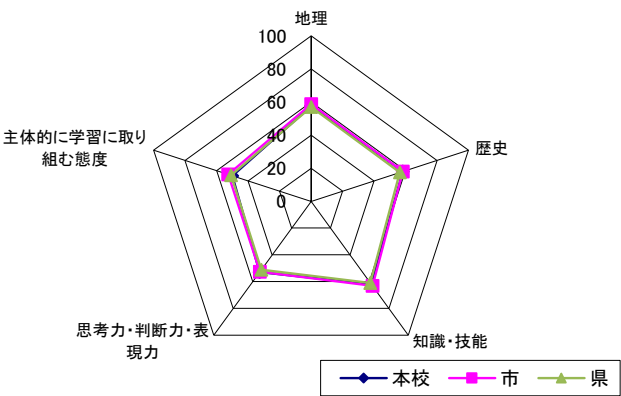


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	57.7	58.7	57.0
	歴史	58.3	58.3	56.4
観点	知識・技能	61.9	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	52.8	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の姿	○世界のさまざまな国の特色や地図の特徴にもとづく地図の読み取りについての理解は県平均と同程度だった。 ●様々な国の国旗の特色についての理解が、県平均を10ポイント下回っている。	・世界地理の学習においては、白地図を活用した作業学習を取り入れていくことによって理解を深めさせる。
日本の姿	○日本の都道府県についての理解、排他的経済水域の面積について試料をもとにしたの考察、緯度経度をもとにした模式図の読み取りなど、いずれも県平均を2～5ポイント上回っている	・実際の現地の映像資料を活用して、理解をさらに深めさせていく。
世界各地の人々の生活と環境	○雨温図をもとにした世界各地の気候についての考察、複数の資料をもとにした乾燥した地域に住む人々の暮らしについての考察、会話文に着目しての世界の宗教についての考察など、いずれも県平均を6～7ポイント上回っている。	・映像資料を活用して、日本との違いや共通点を学ばせて、理解を深めさせていく。
世界の諸地域	○全5項目中3項目で県平均を3～5ポイント下回ったが、アフリカ州のモノカルチャー経済についての考察やオセアニア州の気候と農業についての2項目では、それぞれ7ポイント・8ポイント上回っている。	・資料やデータを読み取る訓練を授業に多く取り入れて、理解をさらに深めさせていく。
古代までの日本	○年代の表し方について県平均を6.7ポイント上回っている。また、縄文時代の人々の暮らしについて複数の資料を読み取る問題では、73.7ポイントと高い正答率となり、これは県平均を8.1ポイント上回っている。 ●県平均よりも上回ってはいるものの、古代文明の特色を問う問題で正答率が50.3ポイントと低くなっている。	・単元末のまとめの活動において、グループでの話し合いや意見交換、発表などの機会を充実させ、各時代の特色をとらえさせていく。
中世の日本	○鎌倉幕府の政治に元寇が与えた影響について複数の資料から考察する問題の正答率が77.2ポイントと高く、これは県平均を6.9ポイント上回っている。 ●武士の成長について、複数の資料をもとに考察し、記述する問題では、正答率が16.4ポイントと大変低くなっており、県平均19.1ポイントからも2.7ポイント低い。	複数の資料から考察したことを、文章で記述させる機会を多く設ける。その際、指導計画を工夫し、キーワードを示したり、グループで考えさせるなど段階を追って少しずつ表現力が身につくようにする。